

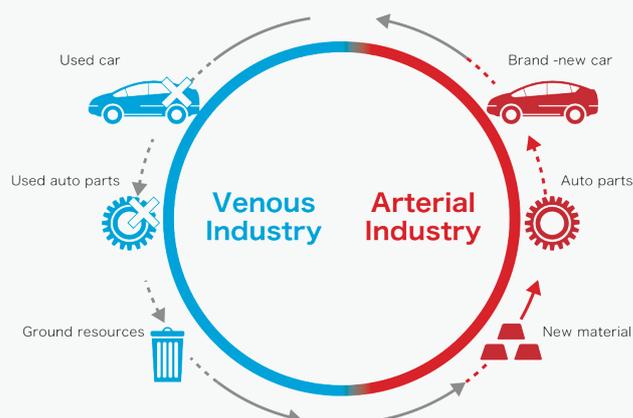
# サステナビリティ経営

## サステナビリティ経営の取り組み「あとしまつ」の責任

会宝産業は、環境方針として「地球規模における資源循環型社会の一翼を担う」ことを掲げています。世界では人口が増加し続け、世界の自動車の保有台数は16億台に上ると言われています。作りっぱなし、売りっぱなしではなく、誰かが「あとしまつ」をしなければなりません。

SDGsは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念としています。SDGsの目標である「作る責任」「使う責任」に加えて、私たちは「あとしまつの責任」を大切にし、日本人が持っている利他の精神で、地球規模課題を解決する静

脈産業のパイオニアとして、常に船の触先に立って果敢に挑戦してまいります。



### 環境方針

会宝産業は使用済自動車を適切に分別処理し、部品のリユース、資源のリサイクルを積極的に進めることで環境負荷の低減に取り組みます。また、当社の事業活動が地球規模における資源循環型社会の一翼を担えるよう、この環境方針を定めます。

1. 環境関連法規を遵守します
2. 目的・目標を設定し、汚染を予防します
3. 環境保全に努めます
4. 当社の活動は継続的に改善します
5. 従業員への教育と啓発を行います
6. 情報を公開します

## マテリアリティの特定

当社の理念、地球規模の課題を踏まえ、全てのステークホルダー（お客様、取引先、社員）に対して、ビジネスを通して当社が取り組むべき重要課題を特定しました。

### 【環境・社会マテリアリティ】

マテリアリティ	ストーリー				
資源循環と 廃棄物削減の推進	<p>自動車は「資源の宝庫」、その価値を極限まで引き出すことで循環型社会の実現に貢献します。リサイクル・リユース率向上を目標に掲げ、リユース部品の販売点数拡大、樹脂リサイクル率の向上を推進します。さらに、自社工場から排出される廃棄物ゼロを目指すとともに、従来は廃棄されていた素材を活用したアップサイクル製品の企画・販売を継続しています。</p> <p>▶▶ p9-11 02 成長戦略 戦略1.リサイクル業×グローバルオンラインプラットフォームへ</p>				
気候変動対策 (脱炭素社会への貢献)	<p>脱炭素社会の実現に向けて科学的根拠に基づいた温室効果ガス (GHG) の削減目標を策定いたしました。この目標は、国際的な気候変動イニシアチブである「SBTi」より、世界の平均気温上昇を1.5°Cに抑えるための水準に適合しているとして、SBT認定を取得しております。</p> <p><b>2030年度に向けた削減目標</b></p> <p>パリ協定が求める高い水準に基づき、以下の目標を達成することをコミットメントいたします。</p> <table><tr><td>Scope1+2<sup>※1</sup></td><td>2020年度基準で、2030年度までに43%削減</td></tr><tr><td>Scope3<sup>※1</sup></td><td>Scope3による温室効果ガス排出量を測定し、2030年度までに削減</td></tr></table> <p>※1 Scope 1：自社が所有・支配する施設からの直接排出 Scope 2：自社が購入したエネルギーの製造時における間接的な排出 Scope 3：Scope1,2以外の自社バリューチェーン全体からの間接的な排出</p>	Scope1+2 <sup>※1</sup>	2020年度基準で、2030年度までに43%削減	Scope3 <sup>※1</sup>	Scope3による温室効果ガス排出量を測定し、2030年度までに削減
Scope1+2 <sup>※1</sup>	2020年度基準で、2030年度までに43%削減				
Scope3 <sup>※1</sup>	Scope3による温室効果ガス排出量を測定し、2030年度までに削減				
グローバルな 技術移転と 社会貢献	<p>急速なモータリゼーションが進む新興国・開発途上国において、自動車リサイクルの職業訓練を提供し、使用済み自動車の適正処理の技術移転を行っています。これは単なる技術支援ではなく、現地での雇用創出や産業振興、そして人々の環境意識を高める「人づくり」を伴う活動です。</p> <p>▶▶ p12-13 02 成長戦略 戦略3.海外循環産業の拡大 グローバルリサイクル事業</p>				

## 【基盤マテリアリティ(人的資本関連)】

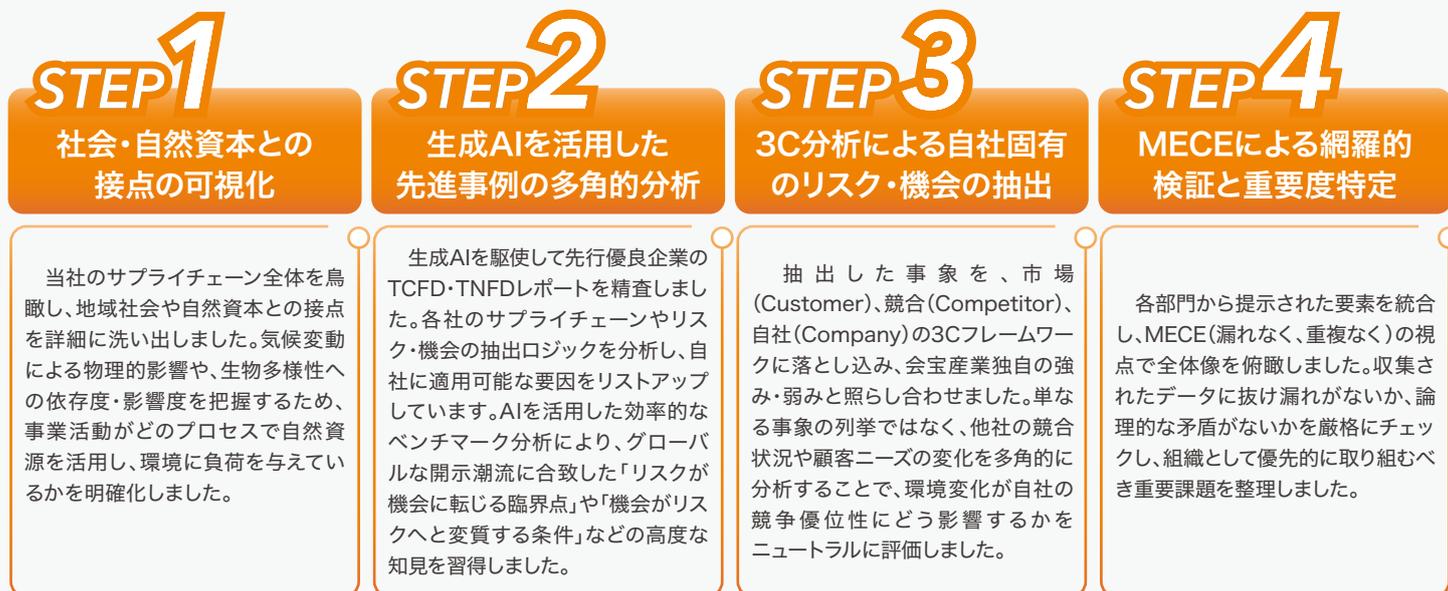
マテリアリティ	ストーリー
<p>人的資本の 最大化 (ウェルビーイングの推進)</p>	<p>企業価値向上の源泉は、社員一人ひとりの情熱と活力にあります。私たちは、社員の健康増進を経営的な投資と捉え、心身ともに健やかに働けるウェルビーイングを推進します。社員が働きやすい環境を作り、組織全体の生産性とモチベーションを高め、持続的な収益増加へと繋げると共に、離職率の低下と優秀な人材の獲得を目指します。</p> <p>▶▶ p14-18 02 成長戦略 戦略4. 変化に強い組織作り</p>
<p>イノベーション型 組織への変革と DX/SXの推進</p>	<p>デジタル技術による業務革新(DX)と、サステナビリティを軸とした事業転換(SX)を両輪とし、既存の枠組みに捉われない柔軟なビジネスモデルを再構築します。この変革を支えるのは、変化を恐れず挑戦し続けるイノベーション型組織です。適応力を高め、常に時代の要請に応え続ける、しなやかで力強い組織体質への転換を目指してまいります。</p> <p>▶▶ p14-18 02 成長戦略 戦略4. 変化に強い組織作り</p>

## 1. 環境

サステナビリティへの取り組みが深化する中、当社はTCFDとTNFDが、無視できない極めて重要な経営課題であると認識しました。サステナビリティ開示基準(ISSB/SSBJ)やTCFD・TNFDの枠組みに沿った戦略的検討を行う上で、現在、全社的な意識改革の一環として、両提言の目的と要求事項に関する集中的な学習を開始しました。

## 長期戦略策定に向けたリスク・機会の特定プロセス

持続可能な社会の実現と企業成長を両立させるため、以下の4ステップを通じてリスクと機会の抽出を推進しました。今後は、本プロセスを通じて抽出したリスクおよび機会について、国際的なフレームワークに基づく情報開示を行うとともに、これらを長期経営戦略へと統合することを目指してまいります。



# 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の取り組み

## ガバナンス

当社は今後、気候変動問題に関する対応方針や重要事項を推進するマネジメント体制を整備してまいります。

## 戦略

気候関連のリスクと機会について、「移行リスク」「物理的リスク」「機会」として以下内容を特定しております。

### ●移行リスク

種類	具体的事象
政策・法規制リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各国の排ガス規制強化</li> <li>◆ 取引先のコンプライアンス強化</li> <li>◆ 新車EV購入のインセンティブ</li> <li>◆ 炭素税・炭素価格制度の導入</li> <li>◆ 生産者拡大責任(EPR)の施行</li> </ul>
技術リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ EV・電動化対応技術への転換による解体・再資源化設備更新</li> </ul>
市場リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 消費者行動・市場構造の変化による原材料・エネルギーコストの上昇、既存市場の縮小</li> </ul>
評判リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ESG評価・TCFD開示への対応要求、ステークホルダー懸念の高まり</li> </ul>

### ●物理的リスク

種類	具体的事象
急性リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 洪水</li> <li>◆ 火災</li> <li>◆ 台風</li> <li>◆ サイクロン等の異常気象</li> </ul>
慢性リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 降水</li> <li>◆ 気象パターン変化</li> <li>◆ 平均気温上昇、海面上昇</li> </ul>

### ●機会

種類	主な切り口	具体的事象
資源の効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交通・輸送手段の効率化</li> <li>◆ 製造・流通プロセスの効率化</li> <li>◆ リサイクル材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 素材・部品の国内物流ネットワーク構築、LCL、コンテナ占有率計算による物流最適化</li> <li>◆ ヤード内動線の最適化、生産手順の最適化</li> <li>◆ ELV解体時の素材・部品再利用率向上</li> </ul>
エネルギー源	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 低炭素エネルギー源の利用</li> <li>◆ 政策的インセンティブ</li> <li>◆ 新技術の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 工場での太陽光発電導入・再エネ(Lib)への切替、商品開発</li> <li>◆ 設備の電動化</li> </ul>
製品/サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 低炭素商品の開発・拡大</li> <li>◆ 気候変動対応商品の開発</li> <li>◆ R&amp;D・イノベーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ EV部品のリユース、再資源化技術を活用した認証サービス</li> <li>◆ カーボンクレジット算定システム</li> </ul>
市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 新市場アクセス</li> <li>◆ 公的インセンティブ</li> <li>◆ 資源・地域アクセス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ カーボンクレジット市場への参入</li> <li>◆ 海外ELV制度整備支援(JICA/UNIDO等)、</li> <li>◆ インド・アフリカ市場展開</li> </ul>
強靭性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 省エネ、再エネ対策推進</li> <li>◆ 資源の多様化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 国内外拠点の分散化、保険・BCP強化</li> <li>◆ 再エネ導入による供給安定</li> </ul>

現時点では、これらのリスクや機会に対する定量的データの蓄積や具体的なアクションプランの策定は途上にあります。今後は、これらの特定した課題に対する具体的な対応策を検討していきます。

## 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) の取り組み

### 優先的に管理すべき自然資源の特定

当社の事業領域(自動車リサイクル、農業、ウェルビーイング)において、特に依存度・影響度が高い以下の「自然資源」を優先管理項目として抽出しました。当社は、持続可能な社会の実現に向け、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)に基づく情報開示に向けて、今後、LEAPアプローチを導入し、自然関連リスクおよび機会の特定を行っていきます。

### 優先的に管理すべき自然資源

#### リサイクル事業の 核となる資源

- 鉱物 ● 金属
- 鉄、アルミ、銅、プラスチック、ゴム 等



#### 農業事業の基盤と なる生命の源泉

- 土壌 ● 水
- 生物多様性



#### 社員の健康と ウェルビーイングを 支える環境要素

- 空気 大気質



### TNFDに基づく情報開示に向けて

# LEAP approach



## 2. 社会

### 豊かな社会・未来に向けた取り組み

#### 地域とともに進める環境啓発活動 - 「会宝リサイくるまつり」の開催 -

地域社会とともにリサイクルの価値を共有する取り組みとして、2011年より体験型環境イベント「会宝リサイくるまつり」を継続的に開催、これまでに24,000人以上の方々にご来場いただきました。本イベントは、日常生活では触れる機会の少ない自動車リサイクルの現場や資源循環の仕組みを、子どもから大人まで楽しみながら学んでいただくことを目的としています。リサイクルを「知識」として伝えるだけでなく、実際に「見て・触れて・体験する」ことで、資源を大切に使う意識や環境配慮行動につなげることを重視しています。当日は、くるまの解体ショーや使用済み部品を活用した体験プログラムを通じて、資源循環の仕組みを分か

りやすく伝えていきます。あわせて、チャリティー企画や不要品回収を実施し、環境啓発と社会貢献を結び付けた取り組みを行っています。



#### 令和6年能登半島地震復興支援

NPO法人ユナイテッド・アースと連携し、現地のニーズを踏まえた支援物資の提供や被災地の清掃・復旧作業など、地域に寄り添った支援活動を継続的に実施しています。また、会宝リサイくるまつりでは、能登半島地震以降、能登島・輪島物産展の開催や復興支援チャリティーオークションを実施し、売上を能登地域の復興支援金として寄付しています。あわせて、社員の忘年会を能登地方の温泉旅館で実施するなど、現地での活動や消費を通じた継続的な復興支援にも取り組んでいます。



# 安全衛生方針

当社は、「安全は何よりも優先する」というスローガンの下、従業員の安全と健康の確保を重要な経営課題として位置づけています。その実践の一環として、毎月開催する労働安全衛生委員会において、労働安全衛生に関する基本的な討議を継続的に行っています。具体的には、長時間労働者の発生状況や過重労働防止に向けた対策、労働災害の発生状況およびその経過、再発防止策の検討、ならびにメンタルヘルス不調者への対応や予防策について定期的に確認・議論しています。現在は健康管理など衛生面を中心とした討議が多いものの、今後はリスクアセスメントの強化などを通じ、

安全面に関する議論の一層の充実を図っていきます。また、年間を通じて季節性や事業特性を踏まえたテーマを設定し、従業員の健康リスク低減に向けた取組みを推進しています。年初にはストレスチェック結果の共有、寒冷対策およびウイルス感染予防を行い、繁忙期には過重労働への対応や心身の健康管理に関する注意喚起を実施しています。さらに、花粉症や食中毒、血压管理、熱中症対策、定期健康診断およびその結果のフォロー、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策など、時期に応じた課題について継続的な討議と啓発を行っています。

## 安全管理体制と教育の徹底

労働安全衛生委員会を中心とした管理体制のもと、安全意識の向上と人材育成を両立させる取組みを進めています。技術者のスキルや安全作業レベルを1～5段階で可視化する制度を導入し、基礎資格の取得状況や経験年数に応じた教育訓練を

体系的に実施しています。これにより、個々の能力に応じた安全教育を行うとともに、キャリア形成の支援にもつなげています。また、社員の意識向上を目的とした安全・技能向上講習を定期的開催しており、年間で概ね4回の講習を実施しています。

## 改善提案活動による現場の安全性向上

当社では毎月、改善提案活動を行っており、2025年は926件の改善案が社員から寄せられました。その中から、現場の声を起点とした安全性向上を重視し、安全に関する内容を重点的に抽出し、具体的な対策へと反映しています。例えば、工場間の連携によりガソリン抜き取り機の改良を行い、

作業者へのガソリンの飛散・不着の防止ができるようにしました。また、拠点(SLC等)の機能移転・拡張を通じて、従来の狭小な作業スペースを解消し、物理的な安全性の確保と作業効率の向上を同時に実現しています。

## 安全実績の管理

事故・災害の未然防止に向け、労災に至らない軽微な事故やヒヤリ・ハット事例を含め、すべての事故報告を数値化して管理しています。直近では年間17件の事象を把握しており、これらのデータ

を継続的に蓄積・分析することで、再発防止策の精度向上と安全管理レベルの継続的な改善に取り組んでいます。

## 外部顧問メッセージ



平本 督太郎

会宝産業株式会社 上席顧問

金沢工業大学 情報デザイン学部 経営情報学科 教授

会宝産業が、中堅・中小企業として先駆的に「統合報告書」を発刊されたことを心よりお祝い申し上げます。

現在、私たちは気候変動や地政学リスク、経済の分断といった「ポリクライシス(複合的危機)」の渦中にあります。資源の安定供給が脅かされる中、会宝産業が担う自動車リサイクル事業は、単なる廃棄物処理ではなく、資源を再び社会へと還す「資源循環の安全保障」という極めて重要な社会的使命を帯びています。

中小企業にとって、激変する社会における「リスク」と「機会」を正しく定義し、自社の現在地を客観視することは容易ではありません。しかし、会宝産業は本報告書の作成プロセスを通じて、自らの事業が社会にどのような価値をもたらすのかという「価値創造ストーリー」を磨き上げ、対話の場に立たれました。

この真摯な姿勢こそが、会宝産業が大切にされている「船の舳先」というパイオニア精神の体現に他なりません。自らが先陣を切って道を示す姿は、日本の、そして世界のサーキュラーエコノミーを牽引する中小企業の希望の光となるはずです。

日本が誇る「もったいない」の精神と高度な技術力が、この報告書を通じて世界の共通言語として世界へ発信されることで、日本の中小企業のさらなる飛躍と世界における持続可能な社会の実現に繋がることを確信しております。